

収穫は手作業で、葉を傷めず異物混入リスクを回避して他社との差別化 (大分ほっぺリーフ株式会社)

〈法人の概要〉

所在地：大分県大分市

設立：平成29（2017）年5月

売上高：2億円

役員：4名（うち農業従事者4名）

農業開始：平成29（2017）年5月

経営面積：5ha

営農作物：ベビーリーフ、その他葉物野菜



〈農業参入に至った経緯〉

静岡県で農産物の卸売りを営む株式会社JOINと農地所有適格法人である熊本市の有限会社ベジタブル・ユーが新鮮で安全安心な農産物の生産と販路拡大を共同で取り組もうと計画。有限会社ベジタブル・ユーはベビーリーフの需要拡大への対応とリスク分散のため、九州内での新たな農地を探していたことから、補助金や新規参入者に対する研修など、農業への企業参入に手厚い支援がある大分県に参入について相談、その結果、この2社の共同出資で、大分市に「大分ほっぺリーフ株式会社」を設立して参入することになった。

両社はこれまでも取引があり、両社の代表が、趣味の車で意気投合。また、株式会社JOINで働いていた金子氏も交えて個人的な付き合いをしていたことが、この2社が手を組むきっかけとなった。

このような背景もあり、新しい会社設立に当たり“自ら生産するからこそ解ることがある、共に会社を大きくしていこう”という思いから、金子氏が大分ほっぺリーフ株式会社の代表者に名乗りを上げ、就任された。



ベビーリーフ栽培ほ場



ベビーリーフ袋詰め作業

〈農業参入することを決めてから営農開始まで〉

大分県の斡旋で大分市に国や県、市の補助金等を活用して1.9haのハウスを建設。その間、約1年に亘り、熊本市の有限会社ベジタル・ユーで研修を受け、栽培技術を習得するなど、土地探しから実際に営農を開始するまでに実に2年を要した。

出会いにも恵まれ、大分市での農業参入が決まり、周辺の住民への挨拶回り先で紹介された方が社員として加わり、また、その社員が知り合いなどに声掛けをしてくれたおかげで人が集まり、パートも含め、従業員集めに困ることはなかった。更に、大分県は参入のための補助金や土地の斡旋といった支援だけでなく、参入後も、普及指導員による技術的なサポートもあり、年に一回行われる県主催の農業参入者研修は技術の習得や情報交換の場ともなっている。

〈営農開始から現在、また今後の経営の展開方向〉

営農開始にあたっては、消費者ニーズと大分市の気候や土壌に合う品種選びから始め、現在はベビーリーフだけでも10種類、その他、春菊、三つ葉、ケール等の葉物野菜も栽培。

経営面積は、徐々に規模拡大を進め、現在は約5.7ha（施設1.9ha、露地3.8ha）を耕作している。

味や葉色の良い高品質な作物を栽培するため、土づくりにこだわり、有機肥料を中心を使用。また、安全・安心な商品を提供するため、収穫、選別、包装といった作業は、全て手作業で行うことで、葉を傷めず、異物混入のリスクを回避し、他社との差別化を図っている。

販路は、株式会社JOINの取引先に加え、卸売業者で培ったノウハウを遺憾なく発揮。商品にスーパーなどの小売店の要望を取り入れ、カット・ラッピング済みの野菜を出荷したり、季節の商品としてニーズが高い、七草について、オリジナルの品種は収穫期を揃えることが難しいため、定番の七草と近い系統の品種に置き換えて、パッケージ、「新しい七草」として商品化するなどの工夫をし、消費者だけでなく、小売店等のニーズにも応えることで、販路を拡大、現在では約70社へ出荷を行っている。

今後も規模拡大と高品質なベビーリーフや葉野菜の生産を目指している。

